鴻巣のイベント情報 Vol.4

編集部 長島義明のオススメ！

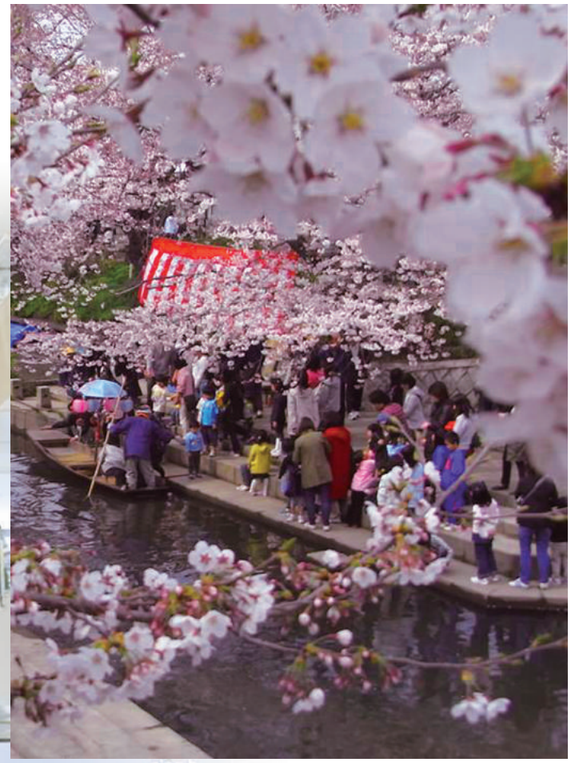
日本一高いピラミッドひな壇「鴻巣びっくりひな祭り2017」

鴻巣のひな人形は約380年の歴史を誇る貴重な地場産業として現在に伝えられています。「鴻巣びっくりひな祭り」は、歴史ある「雛の街」として、毎年多くの観光客をお迎えし、まちを明るく元気にすることを目的に開催しています。

開催日時と場所は下記のとおり。そのほか公共施設や商店等の協力により、街角にひな人形を飾り楽しんでもらう「まちかどひなめぐり」を実施します。

メイン会場：「エルミこうのすショピングモール」
“日本一高いピラミッドひな壇（31段高さ7m）”
2月17日（金）～3月12日（日）10時～21時（最終日は15時まで）

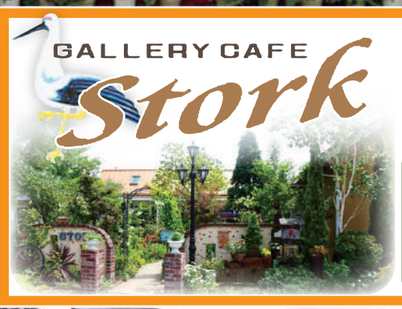
サテライト会場：
鴻巣エリア「産業観光館ひなの里」「パンジーハウス」
吹上エリア「コスモスアリーナ吹上」「吹上生涯学習センター」
川里エリア「花久の里」
2月17日（金）～3月11日（土）9時～17時



吹上桜まつり

皆さんご存知ですか？ 吹上地域を流れる元荒川沿いには約500本の美しい桜並木があり、川にかかる17カ所の「橋」にも見応えがあることを。特に佐賀橋～桜橋までの約200m間には「さくらまつり」の会場があり、出店やステージイベントや観光舟も運航します。

イベント開催日：4月1日（土）・4月2日（日） 10:00～16:00
お問い合わせ：048-548-0049（鴻巣市商工会吹上支所）



STORKとは鴻巣のシンボルであるコウノトリ。手作り感と本物の良さを求め、2007年にオープン。シンプルな中に落ち着きと品格が漂うギャラリー喫茶です。ご飲食の他に、コンサートや絵画・陶芸などの展示会もお楽しみいただけます。

ギャラリーカフェ ストーク
鴻巣市人形4-4-113
【営業時間】11:00～19:00
【定休日】月・火
【TEL】090-1122-9127

専門医による定期的な
内視鏡検査を受けましょう
苦痛の少ない細径の経鼻胃内視鏡を採用しています
高橋胃腸科医院 鴻巣市人形3-1-19（鴻巣自動車教習所前）

胃腸科 外科 内科 整形外科 皮膚科 糖尿病専門外来

院長：高橋克行
日本外科学会認定専門医
日本消化器内視鏡学会認定指導医・専門医
日本大腸肛門病学会認定専門医
日本医師会認定産業医

TEL:048-542-5018
診療日：月火水・金土　休診日：木曜午後・日・祝
【午前】9:00～13:00（木曜は12:00まで）
【午後】15:00～18:00　駐車場：15台

氷川山 鴻巣大野神社
大間の「大」と中野の「野」をとって「大野神社」と社名を定めました。大野神社は、元来は氷川神社であったため山号があり「氷川山大野神社」といいます。

拝殿内にある男爵渋沢栄一翁の真筆は必見です。

鴻巣市大間2-11-26　TEL：048-596-5145　http://oonojinja.jp/

メイキッスは料理もイベントも幅広く楽しんでいただけるお店です

西洋料理 MayKiss

アットホームな雰囲気で本格西洋料理を――。
レストランウェディングやパーティーも承ります。
JAZZLIVEや落語などのイベントも開催。
詳細はお問い合わせください。

TEL：048-542-4953　鴻巣市本町4-9-27　定休日：水曜日
【ランチ】11:00～15:00（14:00ラストオーダー）
【ディナー】18:00～22:00（20:00ラストオーダー）

こうのす歴史散歩

第２回：荊原（ばらはら）

市内の地名にまつわるコラムです。

旧大里郡久下村の一部を河川改修後の荒川の流路に合わせ、昭和16年に旧吹上町に編入した地域が奇跡の地名「荊原」です。室町時代の末、若狭国（現福井県）の一城主の子孫が久下村に閑居し、棘（いばら）の覆う原野を開発したおりに「棘原・荊原」と命名したと伝えられています。

市街化されていない地域の地名は、現在に至るまで「大字・字」の階層構造で登記されています。しかし、住民基本台帳には「大字地名」のみが記載され「字地名」は住所として使用されません。「大字」とは明治初期まで存在した「江戸時代の村＝藩政村」の名称を継承したもの、「字」とは藩政村内の部分的な狭小区域の地名です。当初の登記では「久下村字熊久・上分・古城・鎮守・下分」となりましたが、明治22年の合併により全国に7万も存在した村（藩政村）が、1万五千の村（行政村）に再編され、登記は「大字久下字…」のようになりました。これが「大字」の誕生、藩政村名に由来するという理由です。

「荊原」は藩政村である久下村内の字名でしたが、狭小すぎるために明治初期の登記制度の導入時に「字地名」に採用されず、幻の地名となりました。ところが70余年後の昭和16年、当時の吹上町が「久下村の一部」を編入する際、幻の地名である「荊原」を「字地名」を飛び越し「大字地名」として大出世させる形で採用したのです。

この英断により、幻の地名「荊原」は現在に至るまで住所として使用される地名として継承されることになりました。全国でも珍しい、鴻巣市内では唯一の事例です。この地に佇む「権八地蔵」さんのお導きだったのかもしれません。（栗原）

編集部より

創刊一周年記念パーティを開催しました

2016年10月30日、市民活動センター会議室にて、たくさんの方にご参加いただき、情報誌『こうのす』創刊一周年記念パーティを開催いたしました。

アトラクションとして、こうのす観光大使として活躍されている語り部の平山八重様をお招きし、編集委員の池澤陽子とともに「語りと詩吟」をご披露いただきました。また、参加者へのインタビューを行い、皆さまの『こうのす』への想い、期待をお伺いいたしました。

おかげさまで『こうのす』は創刊一年を迎えることができました。様々な方と意見交換をさせていただき、編集委員一同、制作活動への大きな励みとなりました。心よりお礼申し上げます。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

情報誌『こうのす』賛助会員（法人・個人）募集中！

発行誌の提供、Webサイト『鴻巣NEWS』への名前記載など様々な特典をご用意しています。

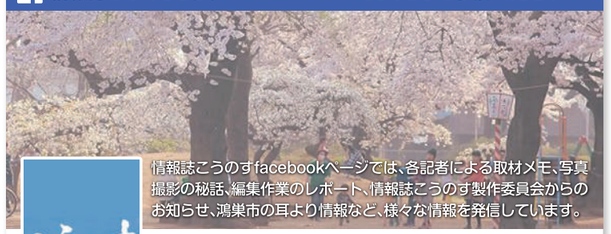
＜申込方法・宛先＞
郵便ハガキまたはメールにて①氏名 ②住所 ③電話番号をお知らせください。
郵　便：〒365-0047 埼玉県鴻巣市逆川1-2-2-502　情報誌こうのす製作委員会事務局 宛
メール：kounosusi@gmail.com

カメラマン長島信幸の「こうのす」表紙撮影メモ

江戸時代は雛人形は今以上に高価なものでした。子供の成長を願う庶民が考えたのが由来と言われてます。花久の里に展示されていた一体の吊るし雛を魚眼でとらえて、可愛らしさを強調出来るように撮影してみました。

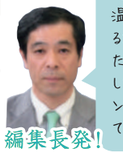
【お詫びと訂正】
第４号「特集」記事内の内山家の所在地はJR高崎線東側です。お詫びして訂正いたします。

情報誌こうのす公式facebookページです。ぜひご参加ください！



情報誌こうのすfacebookページでは、各記者による取材メモ、写真撮影の秘話、編集作業のレポート、情報誌こうのす製作委員会からのお知らせ、鴻巣市の耳より情報など、様々な情報を発信しています。

こうのす
facebookの「友達を見つける」で…
大人の地域再発見誌こうのす
「いいね！」を押してね！



編集長発！

昨秋の「おおとりまつり」で、鴻巣市と観光交流のある、群馬県沼田市の老神温泉の大蛇を担がせていただきました。祭りは見て楽しいのはもちろん、参加することによって人々のつながりを強め、地域に活力をもたらせてくれると実感しました。祭りへの参加を機に、小誌も地域活性の担い手になれるよう、より力を尽くしたいと思います。さて、今回の特集は「ジョギングマップ吹上ルート」。市民ランナーである小誌記者が実際にコースを走って取材しました。ウォーキング用としても十分にご活用いただけます。小誌片手に心地よい汗をかいてみませんか？

Next Issue! 大人の地域再発見誌 こうのす
次号（第6号）は 2017年6月15日（木）発行予定です。
特集 「こうのすカフェマップ Vol.2」（予定）
※発行日・特集は予告なく変更する場合がございます。ご了承下さい。

大人の地域再発見誌『こうのす』 vol.5（2017.2.15発行） 禁無断転載
◆制作・発行：情報誌こうのす製作委員会 〒365-0047 埼玉県鴻巣市逆川1-2-2-502
TEL.048-578-8222　FAX.048-578-8223　kounosusi@gmail.com
◆真鍋 透（編集長）／栗原俊也・早川智恵子（副編集長）／長島信幸（表紙撮影）／川口正光・須永隆広・高橋 敦・長島義明・吉田大樹（記者）／黒澤 章（広報）／池澤陽子（誌面編集）／黒沼明子（デザイン）／斎藤 徹（発行人）